

第69回 知恵袋講座 2022.7.19(火)

NPO法人安房文化遺産フォーラム

紛争が起きても戦争にしない ～ AALA活動とASEANツアーから学ぶ～

千葉県アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会
(千葉県AALA) 事務局長 上田 敦子
NPO法人安房文化遺産フォーラム 理事



MEMO

「アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会 (AALA)」って？

- AALA地域諸国民の相互理解・友好 (キューバ人民支援、ベトナム人民支援、チリ人民連帯、ニカラグア支援、南アアパルトヘイト反対 <アマンドラ全国公演> など)、**平和と民主主義、非核**(核兵器のない)、**非同盟**(大国と軍事同盟を結ばない) の日本をめざして、

日本A連帯委員会 (1955年10月創立) ⇒ 日本AA連帯委員会 (1958年)

⇒ 日本AALA連帯委員会 (1984年)

- ・非同盟諸国首脳会議 (137ヶ国+α) に、アジアアフリカ人民連帯機構の事務局メンバーとして、オブザーバー参加している日本で唯一の市民団体 (日本AALAのしおり参照)

□ 具体的に、千葉県AALAでは？

(別紙、千葉県AALAしおり参照 2012~2017年)

- ・日本AALAの都道府県組織で、2002年に結成。会員は約200人。毎年総会を開き、活動。
- ・「世界を知って、日本をかえよう」と呼びかけ、学習・講演、史跡等の見学、海外への交流の旅などを企画・実施、日本が位置するアジアに軸足を置いて、学び、考え、行動しています。また、平和と民主主義を破壊する動きに対して県内の民主団体と協力・共同の活動をしています。

東南アジア諸国連合 (ASEAN) って？

日本の首相も参加する東アジアサミットやASEAN地域フォーラム。でも、ASEANの主催であることはあまり知られていないのでは？



(写真：外務省HPより)

2019年：第14回東アジアサミット

第15回・第16回はコロナパンデミックによりオンライン会議

2022年：第17回は11月頃カンボジア開催の予定

AAALAが ASEANに注目し、訪問したわけ (2014年当時)

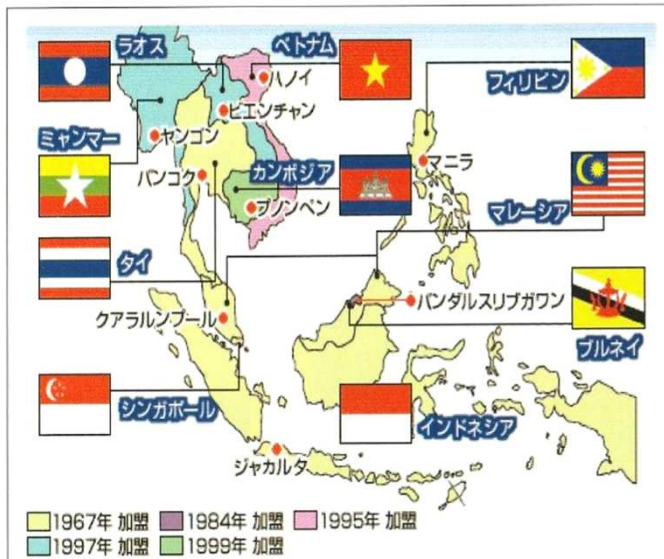
- ・2014年7月には、集団的自衛権行使の容認を「閣議決定」するなど、これまでの専守防衛を逸脱し、「戦争する国」への動きが強まる。実際に翌2015年、安保法制成立。平和への危機感から、「紛争を戦争にしない」努力を積み重ねているASEANに学ぼうと訪問した。
- ・「東アジアに平和の共同体」を創設しようというAAALAの運動方針(前年)を具体的に進めるために、インドネシアのASEAN事務局と議長国ミャンマー(2014年当時)を訪問して学ぶ。
- ・当時、アジアでは東南アジア諸国連合(ASEAN)、アフリカではアフリカ連合(AU)、中南米では中南米カリブ海諸国共同体(CELAC)など、平和な地域をつくらうとする「平和の共同体」が生まれ、注目されていた。
- ・特にASEANでは、2015年末、ASEAN共同体(政治・安全保障、経済、社会・文化の3分野)を構築し、システムUPをめざしていた。



2014年 ASEANツアーの日程 (主催：日本AALA)

6月22日	成田発 → クアラルンプール経由 → ジャカルタ着		
6月23日 ジャカルタ	10:00～	ASEAN事務局訪問	ASEAN事務局 安全保障共同体局 対外関係第1課長 ケオ・チュア氏と懇談
	14:00～	インドネシア共和国副大統領府	副大統領補佐官 デビ・フォルトゥーナ・アンワル氏と懇談
6月24日 バンドン	ジャカルタ → バンドンへ (専用バス)		
	13:20～	アジア・アフリカ会議(バンドン) 博物館	副館長アセップと懇談、館内見学
	午後	竹楽器の伝統音楽鑑賞(ウジョ村)	
6月25日 ヤンゴン	ジャカルタ (AM4:40) 発 → クアラルンプール → ヤンゴン着		
	11:15～		ジャーナリスト・ミャンマー記者協会役員 ミヤインさんの出迎え
	14:00～	ミャンマー連邦共和国外務省	ミャンマー連邦共和国 外務省 ASEAN局長 アウン・リン氏と懇談
6月26日 ヤンゴン	11:00～	国民民主連盟(NLD)本部	副党首ニャン・ウイン氏、執行委員トウン・トゥン・ヘイン氏、 執行委員ウン・プー氏と懇談
6月27日 バゴ	終日	市内見学(バゴなど)	車中、ミヤインさんから民主化運動の話を聞く
6月28日 ヤンゴン	10:00～	国民民主連盟(NLD)本部	NLD副党首ティン・ウー氏と懇談
	11:30～	88世代学生運動本部	ビルマ学生連合議長ミン・コー・ナイン氏(獄中15年) 学生運動のリーダーNO2コー・コー・ジー氏(獄中12年)と懇談
ヤンゴン発 → クアラルンプール経由 → 成田着			

東南アジア諸国連合 (ASEAN) を構成する国々の歴史と今



(© 外務省アセアン キッズセンター)

原加盟国 5カ国 1967年

インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ

冷戦下で共産主義の拡張への対抗と経済ブロックの構築を目的に、拘束力の緩い組織として設立。

(インドネシアのアンワルさんの言葉)

新規加盟国 5カ国

ブルネイ・ダルサラーム (1984年)

冷戦終結(1991年)

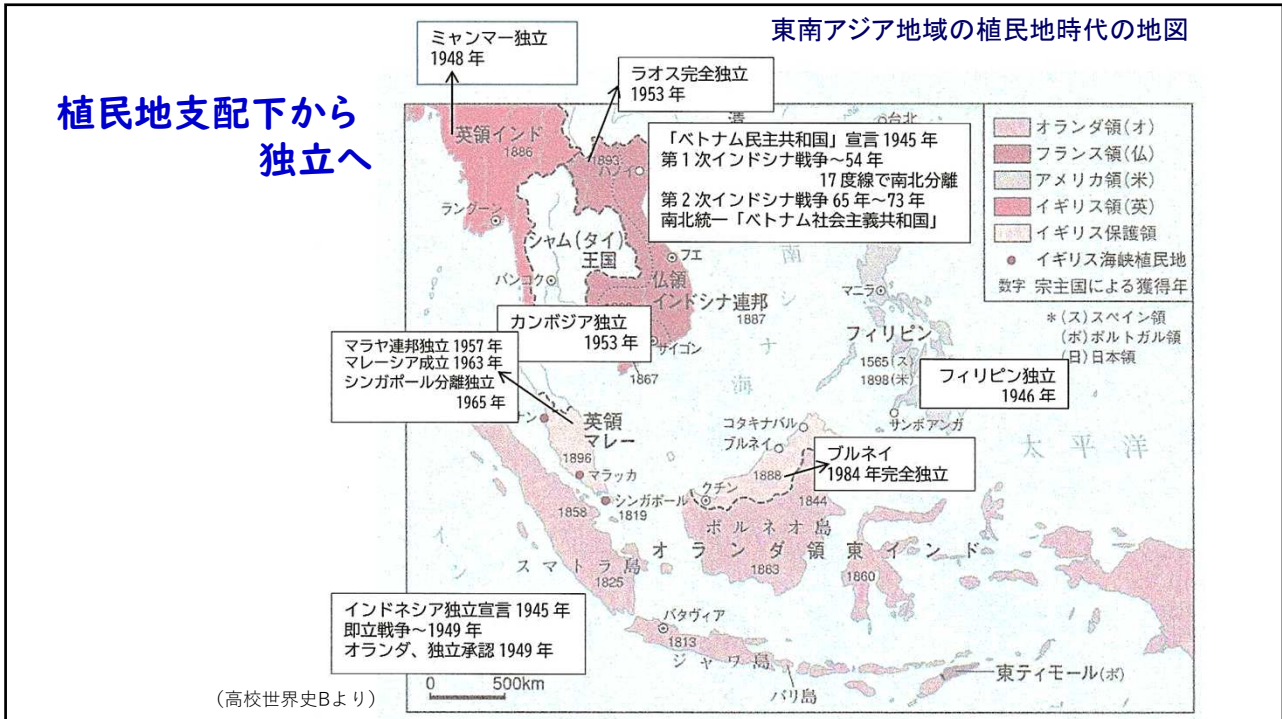
ベトナム (1995年)、

ラオス、ミャンマー (1997年)、

カンボジア (1999年)

『知りたかったアセアン—平和の共同体を求めて—』

日本AALA発行より



ASEAN諸国の多様性	人口	宗教	民族	言語	政治体制	
	インドネシア共和国	2億7000万人 (2020年)	イスラム教86% キリスト教10%、ヒンズー教2% 仏教1%、その他1%	大半がマレー系 (ジャワ、スンダ等 約300種族)	インドネシア語	大統領制 (ジョコ・ウィドド大統領 '19~5年任期) 共和制
	タイ王国	6617万人 (2021年)	仏教94%、イスラム教5% その他1%	大多数がタイ族、 その他華人、マレー族等	タイ語	立憲君主制 (ラマ10世王、16年即位)
	シンガポール共和国	569万人 (2020年)	仏教、イスラム教、キリスト教 道教、ヒンズー教	中華系76%、 マレー系15%、 インド系7%、その他2%	国語：マレー語 公用語：英語、中国語、 マレー語、タミール語	立憲共和制 (ハリマ・ヤコブ大統領 '17年~任期6年)
	マレーシア	3270万人 (2020年)	イスラム教61% (連邦の宗教) 仏教20%、キリスト教9% ヒンズー教6%、儒教・道教1% その他3%	マレー系69%、 中国系22%、 インド系7%、その他2%	国語：マレー語 中国語、タミール語、 英語	立憲君主制 (アブドゥラ第16代国王 '19年~任期5年)
	フィリピン共和国	1億903万人 (2020年)	カトリック83% その他のキリスト教10% イスラム教5%、その他2%	マレー系が主体 他に中国系、 スペイン系及び少数民族	国語：フィリピン語 公用語：フィリピン語 及び英語。180以上の言語	立憲共和制 (ロドリゴ・ドゥテルテ大統領)
	ブルネイ・ダルサラーム国	45.9万人 (2019年)	イスラム教 (国教) 81% 仏教7%、キリスト教7% その他5%	マレー系66%、 中華系10%、その他24%	公用語：マレー語 英語は広く通用、 中国語は華人の間で	立憲君主制 (ハサナル・ボルキア国王)
	ベトナム社会主義共和国	9762万人 (2020年)	仏教、カトリック カオダイ教他	キン族 (越南) 86% 他に53の少数民族	ベトナム語	社会主義共和国 (グエン・スアン・フック 国家主席)
	ラオス人民民主共和国	710万人 (2019年)	仏教	ラオ族 (全人口の半数以上) を含む計50民族	ラオス語	人民民主共和制 (トンルン・シーヌリット 国家主席：ラオス人民革命党書記長)
	ミャンマー連邦共和国	5141万人 (2014年)	仏教90%、キリスト教 イスラム教等	ビルマ族70% その他多くの少数民族	ミャンマー語	大統領制、共和制
カンボジア王国	1530万人 (2019年)	仏教 一部少数民族はイスラム教	カンボジア人 (クメール人) 90%	クメール語	立憲君主制 (ノロドム・シハモニ国王 (2004年就任))	

(外務省資料から「一覧表作成2022年」)

ASEANの結束、そのわけと方法とは？

ASEAN事務局本部（インドネシア・ジャカルタ）、インドネシア副大統領府、
ミャンマー外務省ASEAN局（ヤンゴン、当時議長国）、
どこでも共通して強調されたこと

1. 経済発展は平和でこそ！
2. 「紛争は話し合いで解決する」⇒ 東南アジア友好協力条約(TAC)
3. 安全保障の核心は、大国ではなく ASEANが「運転席に」座ること！
4. 主権の尊重、内政不干涉 ⇒ 平和10原則(バンドン10原則)



‘ASEAN WAY’
(ASEAN方式)

日本では、このころ毎日のように
「集団的自衛権」など「力による抑止」
が報道されていて、外から見た日本の
異常さを感じました！（当時の感想から）



ASEAN WAY – その① –

欧米の植民地、第2次世界大戦、植民地からの独立戦争、域内の紛争、ベトナム戦争
など 困難な歴史の中から学び取った強い意思があります。（アンワルさんの話）

1. 各国の政治・経済体制を問わず、全ての国を包摂。排除しない。

2. 「小異を残して大同につく」を実践。違いは当たり前。

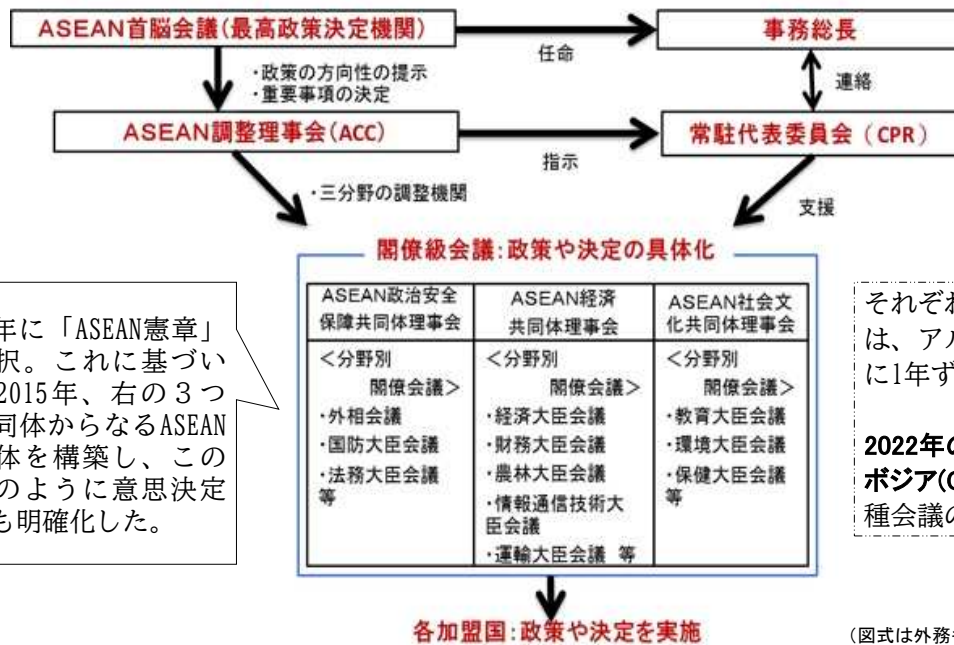
自国が抱えている脆弱性に対する強い危機感から、**利害対立や意見の相違を抱えながら**、
ASEANに結束している。

3. コンセンサス方式（全会一致）：時間はかかるが、決めたことは実行する。

意見の相違は、排除あるいは否定されない。東アジアの歴史的政治的伝統に起源が
あり、**全員賛成という意味ではなく、誰も反対しないという意味。**

公式、非公式の会議が組み合わされ、非公式な外交が重視されている。そのため、
各種レベルの会議は年間1000回にも及ぶ。（『知りたかったアセアン』日本AALA発行より）

<各種レベルの会議は、年1,000回にもなる>



2007年に「ASEAN憲章」を採択。これに基づいて、2015年、右の3つの共同体からなるASEAN共同体を構築し、この図式のように意思決定過程も明確化した。

それぞれの会議の議長は、アルファベット順に1年ずつで交代する。(cf. EU)
2022年の議長国は、カンボジア(Cambodia)で各種会議の議長を行う。

(図式は外務省HPより)

ASEAN WAY – その② –

“話し合えば、戦いにならない”

～ 政治・安全保障共同体局対外関係第一課長 ケオ・チエア氏の話から ～ (当時)



「安全保障分野では、地域の平和と安定の問題があります。南シナ海では、ASEAN加盟国が領有権を主張する海域を中国が浸食し続け、対立しています。私たちは、当事者が話し合いを続け、戦いではなく平静を保つようにしています。なぜなら、私たちは‘人間は席について話し合えば戦いにならない、戦うのはテーブルにつかず話し合いをしないからだ’と考えるからです。そして、いわゆる行動規範(COC)を作ろうと努力していますが、未だ交渉中です。」

「内政不干渉、これは政治問題での原則です。例えば、インドネシアの選挙についてあれこれ介入することはありませんが、経済措置を実行していないことについては、相互に批判します。ただ、政治問題であっても、例えばミャンマーやタイ情勢について、首脳会議でなぜこういう事態になったのか問われれば、いつも説明します。大胆に立ち向かうような介入はしないけれど、助言はします。また、非公開の会議では、どうすべきだと主張はします。私たちは、これをアジア的価値観とよんでいます。」

ASEAN WAY – その③ –

“分裂と紛争の中から生まれたASEANだからこそ、強い結束”

～副大統領補佐官 デビ・フォルトゥーナ・アンワル氏の話から～
(当時、ストックホルム国際平和研究所理事)



東南アジア諸国は、それぞれ別の大国から侵略を受けて植民地にされたことから、東南アジア諸国の間には相互関係がほとんどない状態でした。そのため、連帯感がなく、力も弱く、簡単にばらばらにされてしまいました。冷戦時代にベトナム戦争を経験し、まさに熱戦、血みどろの戦いでした。そのもとで、共産主義に賛同する国とそれに反対する国が対立し、全体的に東南アジアの国々の中に大きな不信感がありました。

【ASEAN設立（1967年）の大きな目標】

- ① 東南アジアの国々で戦争が起きないようにすること
- ② 東南アジアの相互の関係を強化し、外部から簡単に分裂させられないこと
- ③ 共産主義の拡張を阻止すること

1975年：ベトナム戦争の終結

1976年：第1回ASEAN首脳会議において

ASEAN協和宣言と**東南アジア友好協力条約（TAC）**に調印

東南アジア友好協力条約

全二十条

第二章 目的及び原則

第一条

この条約は、締約国の強化、連帯及び関係の緊密化に寄与する締約国の国民の永久の平和、永遠の友好及び協力を促進することを目的とする。

第二条

締約国は、その相互の関係において、次の基本原則を指針とする。

- a すべての国の独立、主権、平等、領土保全及び主体性の相互尊重
- b すべての国が外部から干渉され、転覆され又は強制されることなく国家として存在する権利
- c 相互の国内問題への不干渉
- d 意見の相違又は紛争の平和的手段による解決
- e 武力による威嚇又は武力の行使の放棄
- f 締約国間の効果的な協力

第二章 友好 (略)

第三章 協力 (略)

第四章 紛争の平和的解決 (一部略)

第十三条

締約国は、紛争が発生することを防ぐための決意及び誠意を有するものとする。締約国は、自国に直接影響する問題についての紛争、特に地域の平和及び調和を害するおそれのある紛争が生じた場合には、武力による威嚇又は武力の行使を慎み、常に締約国間で友好的な交渉を通じてその紛争を解決する。

第五章 一般規定 (略)



日本外務省HPより

ASEAN WAY – その④ –

東南アジア友好協力条約 (TAC) とその発展

- 1976年: インドネシア、バリ島での第1回ASEAN首脳会議で、ASEAN協和宣言と共に調印。
 国連憲章、バンドン会議の平和10原則、ASEAN設立宣言('67年)、
 東南アジア中立地帯宣言('71年)に基づき、それらを発展させて、
 法的枠組みで制度化。 ⇒ ASEAN5ヶ国が締結。

□ 武力不行使という基本理念と、対立ではなく友好と協力を通じた紛争の平和的解決

ASEANの国々の中には、未確定の国境線とか戦争の傷跡などたくさんの
 意見の食い違いや紛争があったため、行動規範を必要とした。

• 1977年: 東南アジア条約機構 (SEATO: 軍事同盟) 解散

(1954年結成: アメリカ、イギリス、フランス、パキスタン、タイ、フィリピン、オーストラリア、ニュージーランド)

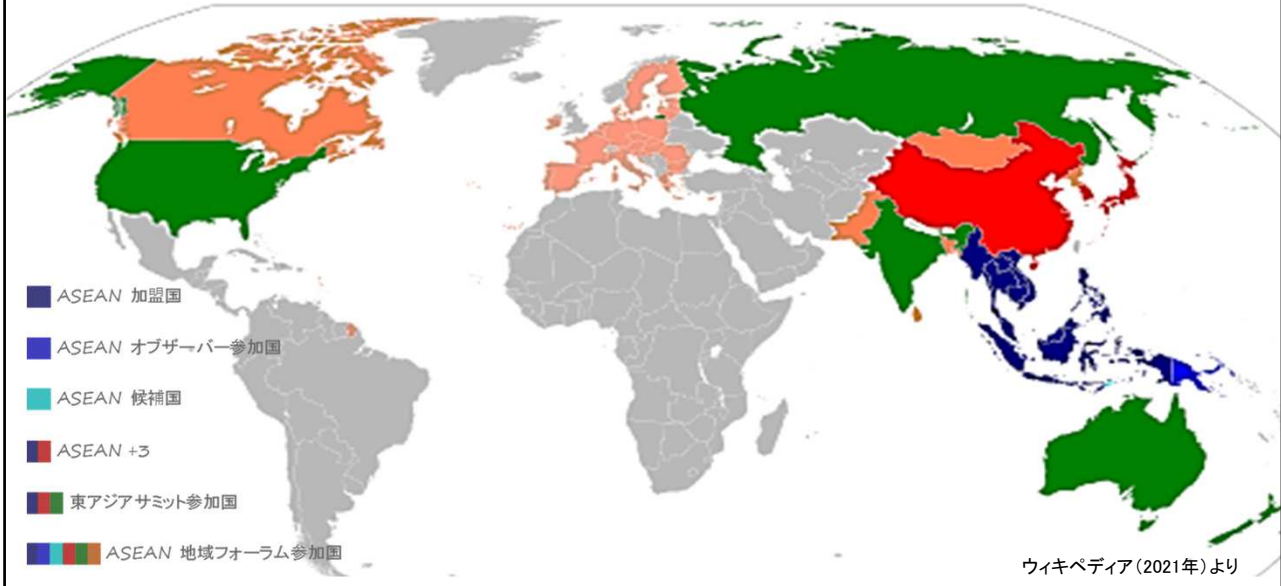
ASEAN WAY – その④ –

東南アジア友好協力条約 (TAC) とその発展

- 1987年: 域外の国が加盟できるように条約改正
- 1994年: 第1回ASEAN地域フォーラム
- 1995年: 東南アジア非核地帯条約
 (2001年10ヶ国批准)
- 1997年: ASEAN30周年記念に招待の形で
 ASEAN+3 (日中韓) 開始
- 2003年: インド、中国が正式加入
- 2004年: 日本、韓国が正式加入
 パキスタン、ロシアが加入
- 2005年: 第1回東アジア首脳会議 (EAS)
 ニュージーランド、モンゴル、
 オーストラリアが加入
- 2006年: フランスが加入
- 2007年: 東ティモール、バングラディシュ、
 スリランカが加入
- 2008年: 北朝鮮が加入
- 2009年: アメリカが加入
- 2010年: カナダ、トルコが加入
- 2012年: 欧州連合 (EU)、イギリス、ブラジルが加入
- 2013年: ノルウェーが加入
- 2016年: チリ、エジプト、モロッコが加入
- その後: オランダ、ギリシャ、デンマーク、ドイツ/
 UAE、オマーン、カタール/イラン/コロンビア
 アルゼンチン、ペルー/他
 (2022年現在: 48ヶ国、1機関)

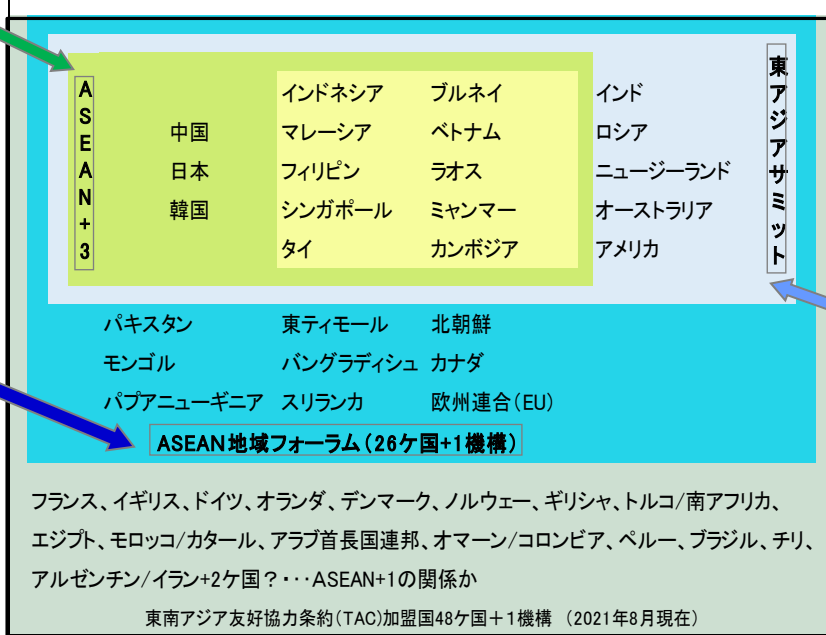
東南アジア友好協力条約 (TAC)加盟で、定期的に話し合う国々

TAC:Treaty of Amity and Cooperation in Southeast Asia



TACを軸に、ASEANを中心とする重層的な平和の枠組み

***ASEAN+3**
 年1回開催。最初、日中韓は何を話し合うのかと反対したが、それでは一緒にテーブルについてお茶を飲む会を、ということで出発したそうだ。
 緒方靖夫氏の話



***東アジアサミット**
 経済連携の強化、社会、安全保障など幅広い分野で協力関係を構築するための対話の枠組み。
 2005年からほぼ毎年1回開催。

***ASEAN地域フォーラム**
 ASEANの政治、安全保障問題を協議する枠組み。1994年からASEAN外相会議に合わせて、毎年夏に開催

ASEAN WAY – その⑤ –

安全保障の核心は、ASEANが「運転席に」座ること!

アジア太平洋地域は、アメリカ、中国、日本、インド、ロシア等多くの国が大きな影響を及ぼしている。この地域が平和で安定するためには、大国との関係をどう築くかが課題となる。大国一国のリーダーシップは、他のいずれの国も受け入れがたい。

- ASEANは、中小国で構成され、他国に脅威を与えることがないため、ASEAN地域フォーラム(ARF)を通じて大国と良いネットワークを築くことができる。支配者ではなく、ドライバーとして運転席に座り、地域の秩序の建設を主導していく。
- 東アジアサミット(EAS)開催にあたっては、当初 ASEAN+3(日・中・韓)だったが、中国が主導権を握ることを心配し、東アジアではないインド、オーストラリア、ニュージーランドを招待すれば、中国の影響力を相殺できると考えた。2011年からアメリカとロシアがEASに参加。
- これによって、アジア太平洋地域に利害関係を持つ全ての国が参加し、同時に一国が主導権を握ることなく開催されるようになった。

⇒ ASEANのインド太平洋構想へつながる

～アンワルさんとの質疑応答から～

Q1:北東アジアの平和は、どう考えたらよいのか?

ASEANは、北朝鮮の核問題を協議する6ヶ国協議には参加していません。ASEAN諸国は、南北朝鮮の両方と良い関係を持っているので、何らかの役割を果たすことができるのではないかと考えています。

今までインドネシアは、韓国と北朝鮮の要請に応じて、両国協議の進行役を数回行っていきます。ですから、6ヶ国協議の枠組みにASEANが入れば何かメリットがあるかもしれません。

北東アジアには、地域の問題を定期的に集まって協議する場と機構がありません。ですから、北東アジア諸国は、ASEANが主催するASEAN首脳会議、東アジアサミット(EAS)、ASEAN地域フォーラム(ARF)に参加し、間接的に話すことを余儀なくされています。しかし、近い将来それだけでは足りないでしょう。



(インドネシア副大統領府でアンワルさんと会見)

Q2:北東アジアの平和のために、 私たちにどんなことができるでしょうか？

日中韓の関係には歴史問題があり、東アジアが前に進むための動きを常に阻んでいることを知っています。私たちは、歴史から学び、歴史を忘れず、そして昔犯した過ちを繰り返さない努力が必要です。

しかし、後ろばかり向いてはいけません。前に進みながら後ろを見ればつまづいてしまいます。昔の歴史を忘れないで、前に進む努力が必要です。

政府間の協議(トラック1)が難しければ、非政府レベルの交流を活発にすることが大事だと思います。学者や専門家同士の間(トラック2)で、学会やNGO(トラック3)を通じて、地域の話し合いを進めることができます。そして、必要な信頼関係と自信を築いていく必要があります。

民間レベルの非公式なフォーラムを定期的を開催すれば、公式の地域フォーラムの先駆者となります。北東アジアにも、ASEANと似たような機構が生まれるかもしれません。

Q3:アジア太平洋地域の平和秩序についてどうお考えですか？

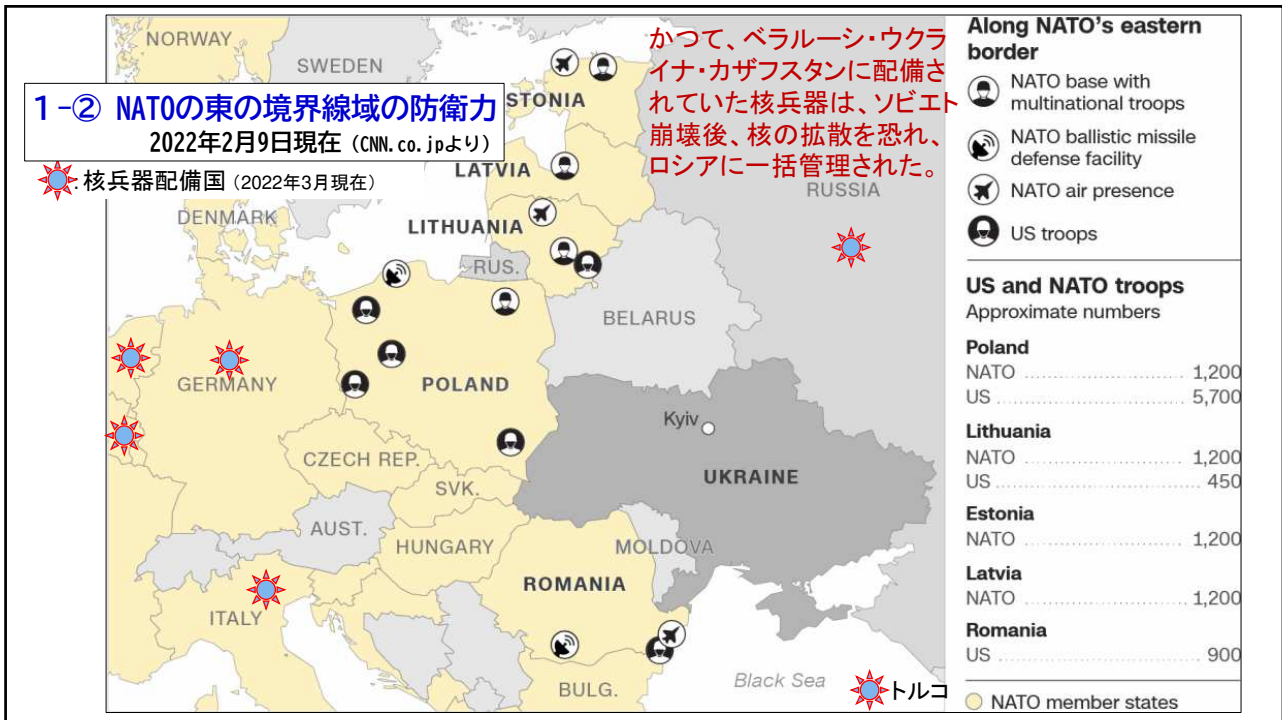
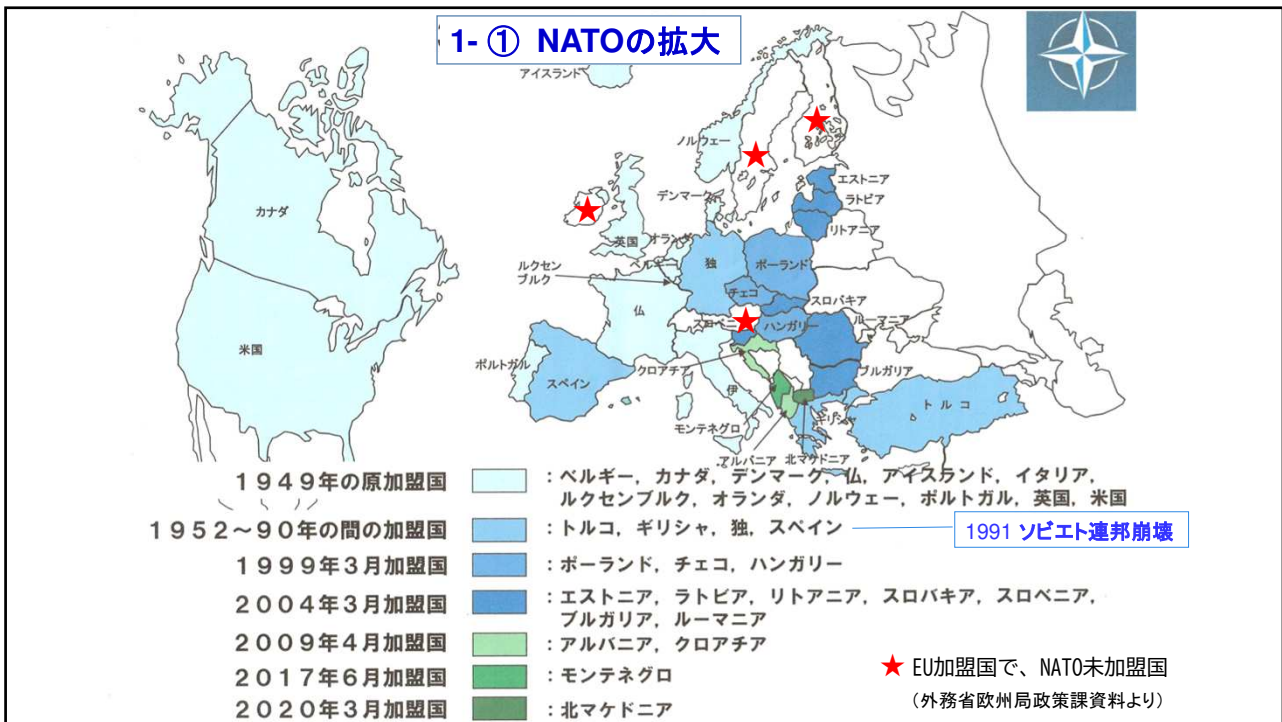
インドネシアは、アジア太平洋地域の秩序についてのビジョンを持っています。

この地域に**利害関係を持つ全ての国が参加**するが、**一国が支配または主導権を握ることができないように**することです。大国の支配を排除しながら参加させる、これがASEAN、特にインドネシアの望んでいる秩序です。

アメリカのリバランス政策については、ASEANもインドネシアも、中国を封じ込めたり、中国の力を妨げるためだとは見ていません。もし、そうだとすると必ず戦争が起きます。私は、リバランス政策はもっと包括的なもので、ただ軍事力を東アジアに再配備することだけに限られていないと思います。(⇒現在、AUKUS、QUADなど危険な動きへ)

中国は、アメリカをアジア以外の国と考える傾向があります。しかし、アメリカは広い国で、西海岸は貿易面でもアジアと密接な関係を持っています。ですから、アメリカをアジア以外と見ることはできません。アメリカはアジア太平洋地域のひとつの力として、その他の力と平和的に共存できることを望んでいます。(2014年当時)

⇒当初「インド太平洋友好協力条約」として、インドネシアのユドヨノ大統領(当時 2013年12月)が提唱。その後、米中対立など地域の平和と安定への不安から、これをもとに2019年 ASEANが「インド太平洋構想」を発表。ASEANが中心的役割を果たし、東アジアサミットを基盤に TACの広域適用を提唱。



アジアの中の日本はどのような選択をするのか？

ロシアのウクライナ侵略の中で、攻撃的な力の論理が・・・

- 9条改憲への動き加速 ⇔ 憲法遵守
- 敵基地攻撃能力の保有 ⇔ 国連憲章遵守
- 核の共有 ⇔ 核兵器禁止条約の署名・批准

AALAとしてできることは何か？

日本AALAは、2015年から「戦争するな！どの国も」の国際署名に取組み、毎年、東アジア諸国首脳会議に届けて、東アジアの平和のために努力しています。これまで約90,000筆を提出しました。ぜひ、ご協力ください！



世界の核兵器数と非核兵器地帯

(原水爆禁止日本協議会HPより 2022年3月現)

Number of Nuclear Warheads and Nuclear Weapon-Free Zones in the World

